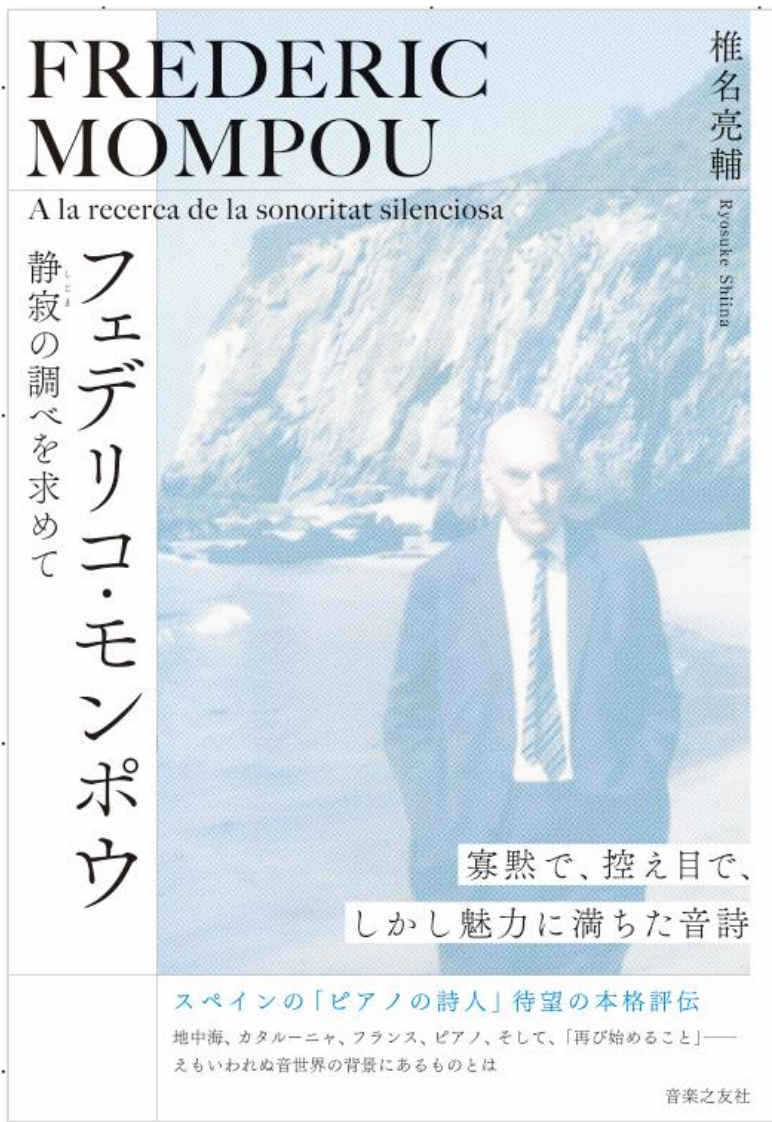


スペインの「ピアノの詩人」。
その生涯と、作品解説（未公刊作品を含む）をまとめた、
待望の本格評伝が登場！



フェデリコ・モンポウ しじま 静寂の調べを求めて

椎名亮輔 著

定価：2,970 円（本体 2,700 円+税10%）／判型・頁数：4-6・256 頁

ISBN 978-4-276-22603-6／発行：音楽之友社

好評発売中

音楽之友社のホームページはこちらから→
出版している書籍などを紹介しています。



猛々しいほど自立的で、
孤独と人間嫌いへの強い傾向を持った彼の音楽は、
地中海的明快さに彩られている

リカルド・ビニェス（ピアニスト）

モンポウはピアノの詩人である。

エミール・グエイエルモーズ（批評家）



©Fundació Frederic Mompou

とても少ない音の数で、絶妙な音の繋げ具合を紡ぎ出し、単純なつくりのピアノ小品や歌曲を書いたスペイン近代音楽の至宝、フェデリコ・モンポウ。その生涯と作品解説を豊富な図版とともにまとめた本格評伝が登場。

カタルーニャの都バルセロナに生まれ、地中海に親しみ、鐘の音を聴いて育った思索的な青年は、ピアニストとして注目を集めるもパリで作曲家として開花。フォーレやラヴェル、サティ、六人組からインスピレーションを受けつつ独自の音楽を追求。各界から称賛され、パリ社交界でもてはやされるが、深いスランプに陥ってしまう。しかし、その数十年後には「再出発」が待っていた。

グラナドス、ファリャ、ラローチャ、ビニェス、セゴビア、ヴァレリー、ピカソ、ストラヴィンスキーといった同時代の音楽家・文化人との交流、そして、禁断の恋愛……彼が作り出した「静寂の調べ」の背景にあるものとは？

* * *

◎目次◎

はじめに／序

第1章 家系、生誕、幼少期（1893–1910）

第2章 最初のパリ滞在とその後（1911–1919）

第4章 パリ時代後半：長引くスランプ？（1926–1940）

第5章 バルセロナ時代（1941–1956）

第6章 結婚以降（1957–1971）

第7章 晩年（1972–1987）

おわりに（海辺の墓地にて）／あとがき／コラム

年譜／作品一覧／参考文献